


分野	33	生涯学習・文化・スポーツ
施策	331	生涯学習環境の充実
5年後の目標	誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につながっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	各種団体・サークル等活動支援事業	会計	款	項	目	244,944	中央公民館
		一般	10	4	2		
事業の概要							
地域の文化力向上のためには、市民の自主的な学習と団体の活動が不可欠です。活発化された活動が地域に還元されることにより、地域全体の文化振興とコミュニティ活動の促進につながるため、社会教育施設としての中央公民館を拠点として活動するサークルや団体の活動を推進します。							


平成29年度の取組							
D (取組)	指標	公民館登録サークルの市民参加人数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	3,437 (平成26年度)	目標	3,480	3,510	3,540	3,570	3,600
		実績	3,818	4,056			
	指標	公民館(社会教育ホール)利用者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
79,916 (平成26年度)	目標	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	
	実績	67,825	73,712				
<ul style="list-style-type: none"> ・公民館サークル連絡協議会(略称:公サ連)の会員が中心となり、公サ連まつりの実施や市民ギャラリーの作品展示、ガラシャまつりのオープンハウスを利用したサークル加入のための啓発活動を実施しました。 ・その他、会員交流会、ガーデニング教室、会員親睦会、他市との交流会の開催など、サークル活動の啓発、発展のための活動を支援しました。 					公サ連まつり		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成29年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の公民館登録サークルの市民参加人数は4,056人(サークル会員の市内構成員数)となり、平成28年度と比べると238人増となりました。公民館登録サークル180団体のうち、公サ連へ加入している団体は35団体、502人であり、平成28年度と比べると5団体、126人減となりました。公民館利用者数については、平成29年1月から4月まで公民館全館で空調工事があったことも影響し、目標値を下回る結果となりました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・登録団体や登録人数に対して、公サ連への加入割合が低く、公サ連の会員が減少していることが課題です。会員の高齢化と公サ連へ加入するメリット(社会教育ホールの優先利用等)が少なくなっていることが原因として考えられます。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・公サ連まつりへの支援や、会員との意見交換等により、公サ連に対する支援を強化するとともに、公民館で実施した講座から新たなサークルが生まれるよう支援するなどし、公サ連の加入サークルを増やすための取り組みを実施します。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ
施策	331	生涯学習環境の充実
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につながっている。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	公民館定期講座開設事業		会計	款	項	目	82,043	中央公民館
			一般	10	4	2		
事業の概要								
地域の文化振興と生活向上のためには、生涯学習環境の充実が必要であり、市民の自主的・主体的な学習意欲の喚起を図るために、市民の多様な学習ニーズに対応し、ライフステージや現代的課題に即した学習機会や学習情報の提供、相談体制を充実します。								


平成29年度の取組							
D (取組)	指標	公民館講座の参加率(参加予定者数÷定員数)				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	89.8(平成26年度)	目標	90.4	90.8	91.2	91.6	92.0
		実績	93.1	93.3			
<ul style="list-style-type: none"> 各世代のニーズや課題に応じた各種講座として、青少年教育(子ども手作り教室2回)、成人教養講座1回、男女共同参画(男女共同参画講座1回、多文化共生子育て講座3回)、高齢者教育(熟年生き生き講座8回)、家庭教育(家庭教育学級1回、びよびよクラブ10回、びよびよクラブイベント講座1回、幼児家庭教育学級1回、子育てふれあいルーム80回)、現代的課題講座(日本語教室8回)、健康教育(健康講座1回)、福祉教育(聴覚言語障がい者学級1回)、環境教育(子どもエコ教室2回、環境教育ミーティング6回)、市民教養講座3回、移動公民館講座2回を実施しました。 年度途中から試行的に、総合計画から抽出したテーマに沿って、市民自らが講師となり講座を企画する市民企画講座を募集、実施(19回)しました。 					多文化共生子育て講座 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・ 講座終了後に参加者へのアンケート調査を実施し、講座の効果等を測定しています。アンケートの集約結果を講師に速やかに返すことにより、各回の講座に反映させています。アンケート結果では、参加者の満足度は80%~100%となっており、市民の学習ニーズを的確にとらえた講座を実施することができ、高い参加率を維持しています。	—
	課題等	・ 市民の学習ニーズや解決すべき現代的課題が年々変化しているため、それらをいかに把握し、迅速に事業内容に反映していくかが課題です。 ・ 市民企画講座の実施に伴い、これまで実施してきた講座の整理をすることが必要です。			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・ 試行的に行った市民企画講座では、教える側のニーズも多くあることが分かりました。今後は、市民企画講座を講座の主軸として実施していきます。 ・ これまで実施してきた講座については、開催時期や講座内容、実施回数を精査し、市民のニーズに沿った講座に厳選し、実施していきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ
施策	331	生涯学習環境の充実
5年後の目標	誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につながっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	中央生涯学習センター管理運営事業		会計	款	項	目	72,111,040	生涯学習課
			一般	10	1	5		
事業の概要								
市民の自主的・自発的な生涯学習活動の場として、中央生涯学習センターを管理運営します。								


平成29年度の取組							
D (取組)	指標	中央生涯学習センター貸室利用率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	47.8(平成26年度)	目標	48.0	48.5	49.0	49.5	50.0
		実績	51.9	50.5			
<ul style="list-style-type: none"> 中央生涯学習センターの管理運営は、指定管理者である大阪ガスビジネスクリエイト株式会社へ委任しています。 指定管理者の自主事業として、はじめの一步体験会、ふらっとコンサート、バンビオ展示ウィーク、バンビオ健康の集い、みんなの自習室、みんなの音楽練習室などを行いました。 生涯学習機関紙「be→!」の全戸配布やJR長岡京駅での自主事業のチラシを掲出など、さまざまな方法で情報発信を行いました。 有益な情報をいち早く提供できるよう、ホームページの更新を施設で簡単に行えるようにしました。 					自主事業(日本茶セミナー)の様子		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		主な社会教育施設の利用者数	年間約40万人で推移しています。		202
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 貸室利用率は年度目標を達成しましたが、前年度よりは減少となりました。 区分貸し(ギャラリー、メインホール)の利用が増え、貸室を利用した人数については、前年度を上回りました。 	
課題等	・目標の利用率は超えているものの、前年度と比較し利用率が低下しています。				

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数の拡大と生涯学習の機会創出を目的として、引き続き指定管理者や団体交流室等と連携し、団体交流室主催のわくわく講座や指定管理者主催の自主事業などを実施します。また、生涯学習機関紙「be→!」や「団体交流室通信」を発行・配布し、積極的な情報発信を行います。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ
施策	331	生涯学習環境の充実
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につながっている。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	図書館サービスの推進・充実		会計	款	項	目	28,051,307	図書館
			一般	10	4	3		
事業の概要								
<p>市民の教養と文化の発展のため、全ての住民の読書を通じた生涯学習の中核施設である図書館資料を充実するため、図書の計画的な入れ替えを図って行きます。特に読書意欲の醸成を行うには幼少期から図書に親しむことが大切であることから、「えほんのひろば」「子どもの広場」等幼少期から本に親しむ事業を展開しながら、特徴の一つである児童書の充実を図って行きます。</p> <p>また、市民に利便性の高い図書館サービスの充実を図っていくため、開館時間の延長・ブックポストの増設・図書館に来ることができない高齢者・障がい者に対する図書の宅配サービス等を図書館の運営形態の在り方をも含め検討を行います。</p>								

平成29年度の取組							
D (取組)	指標	図書館図書貸出冊数				単位	冊
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	410,400 (平成26年度)	目標	426,000	432,000	438,000	444,000	450,000
		実績	422,928	429,450			
	<ul style="list-style-type: none"> ・開館30周年記念事業として、長岡京市にゆかりのある(株)村田製作所、並びに児童文学作家あまきみこさんによる講演等を開催し、それぞれ創作に対する体験談などを語ってもらい、夢を実現する素晴らしさを伝えることができました。 ・また、「えいごであそぼ」、「ぬいぐるみのお泊り会」を実施し、幼少期においてネイティブイングリッシュの体感や子どもたちが自ら本を手取るきっかけ作りを行いました。 ・視覚障がい者の対面朗読を、ボランティアと協力し随時対応を開始しました。 ・通年行事としては、定期的(月1回)に「えほんのひろば」「子どもの広場」「おはなしとブックトーク」「子どもの本を読む会」を開催しています。 ・単発開催行事として「身近な科学あそび」「読書講演会」「戦争と平展」「子ども読書の日・おはなし会」などを開催しています。 						えいごであそぼ
							

施策の「5年後の目標」に対する評価									
平成29年度の達成状況									
C (評価)	評価指標	関連する評価指標				評価指標の傾向・トレンド	対応頁		
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の学習意欲を満たすと思われる情報を調査し、蔵書を的確に整備した結果、目標まで達成していませんが、期待に近い効果がありました。 ・図書館事業で、読み聞かせの本の選び方や語り方を学ぶ「読み聞かせボランティア養成講座及び実技講座」を実施することで、次世代の担い手育成に取り組んでおり、子育て世代からシニア世代まで受講されており、読書意欲及び読書習慣の醸成に効果をあげていると考えられます。 				—	—
				<ul style="list-style-type: none"> ・情報ツール等が拡大するなかで図書館が担う役割が変化しています。市民の人口推移や年齢構成を踏まえ、市民が求める図書館像を調査する必要があります。 					
課題等									

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	2: 進め方の改善の検討が必要
	<ul style="list-style-type: none"> ・広く市民より、これからの時代に求められる図書館はどうあるべきか意見徴収するとともに、「長岡京市立図書館サービス計画」に基づいて、実現に向けた取り組みを順次推進していきます。